

中国文学で「愛」を学ぶ

2022.4.7 静永 健

日本語の文字（漢字）には、「くんよみ」と「おんよみ」があります。

大 は、「おおきい」が訓、「ダイ」が音。

学 は、「まなぶ／まねぶ」が訓、「ガク」が音読み、です。

桜 は、「さくら」が訓、「オウ」が音、 犬 は、「いぬ」が訓、「ケン」が音。

しかし、梅は、「うめ」が訓、「バイ」が音……と一応説明されますが、梅の中国語は今でも「mei」と発音します。「ウメ」という言葉は、中国語の発音「u-mei」から来ています。……ということは、桜は日本古来（土着）の植物ですが、梅は中国大陸から渡ってきた外来の植物なのです。

馬も、「うま」と読みますが、中国語でも「ma」、これも、最初に口をすぼめてから発音するので、古代の日本人には「u-ma」と聞こえたのです。日本に「馬」が何時やってきたか？ これについては、静永の著書『漢籍伝来』（勉誠出版、2010年）を読んでみてください。

さて、「恋（戀）」は、「こい／こいしい」が訓、「レン」が音です。『万葉集』をひもとけば、古代日本人の純粋な「こいごころ」が読み取れます。

しかし、「愛」は、「あい」が訓、音読みも「アイ」です。だとすると、日本人にとって、「愛（愛する）」という感情は、中国から学んだ（＝概念として認識するようになった）と言えます。

友人を愛し、家族を愛し、町じゅうの人々を愛し、全ての世界の平和を愛する心は、中国の古典から学ぶことができる、と言えます。

1年生のみなさん！ 水曜日3限目「文学・言語学入門」（静永が担当）の履修をおすすめします。また、金曜日2限目「人文学基礎Ⅰ・Ⅱ」では、後期の「Ⅱ」に静永が登場します。お楽しみに。 再見（zai jian）！

参考文献：落合淳思『漢字の音』 東方選書、2022年
長谷川權『俳句と人間』岩波新書、2022年